

第 3 年 度 事 業 報 告 書

1 所在地 大阪府高槻市東上牧二丁目 3 7 番 8 号

2 利用定員 2 9 名

3 職員定数 3 2 名

4 事業開始年月日 平成 2 9 年 4 月 1 日

5 事業の概要

地域に根差した地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模型特別養護老人ホーム）として、特に重度でご自宅での生活が困難となってしまわれたご利用者様が、安心して引っ越しをして暮らしを継続していただけるよう支援しました。特に、その人らしさを大切に、お一人お一人の尊厳を守るよう意識しながら運営を行いました。

6 利用者支援

(1) 生活指導

ご入居者様お一人お一人が、一人の「人」として生活していただけるよう、ご本人様・ご家族様から積極的に情報をいただき、個々のお気持ちに寄り添った「支援」「取り組み」「考え方」を職員間に周知し、取り組んできました。取り組みはまだまだ途上にありますが、ご入居者様とご家族様から「上牧の郷に入居できてよかった」「いつも良くしてもらって感謝しています」等のお言葉をいただけることが増えてきたことに私たちも「やりがい」「嬉しさ」「感動」を感じました。

(2) 食事

管理栄養士の管理の下、ご入居者様の健康が維持できるようなバランスのとれたお食事を提供させていただくだけでなく、管理栄養士から食事に関する企画と実行に取り組み、ご入居者様の状況や状態を少しずつ把握・理解するといった積極的な仕事内容に変化し、入居者様に「食」を楽しんでいただけました。

(3) 環境の整備

ご入居者様の自立支援と残存能力を最大限に発揮できるような居室内レイアウトの確立と、現場からの積極的な発案能力もレベルアップしました。その中で、身体拘束ゼロもしっかり実践できました。

7 健康管理

介護と医療の情報交換とコミュニケーションの充実させていく中で、異常の早期発見と対応を迅速に行ってきました。また、季節や時期に合わせた感染症の研修会を開催し、職員全体の意識改革や知識・技術の向上を図った結果、特養全体での感染症を防止できました。

8 防災計画

法に則り、甲種防火管理者を設置し、高槻中消防署の指導の下、防災計画・避難計画等を策定し、定期的な訓練、平成29年7月7日、平成30年2月24日に実施しました。

9 日課

入居者様の生活リズムに合わせた勤務体制に見直し、簡易版24時間シートの作成と現場への導入結果、入居者様個々への関わりが少しずつ増えました。

10 職員

各ユニット常勤職員6名とパート職員1～2名の介護職員で運営しました。管理者、生活相談員、ケアマネとそれぞれ1名ずつ配置していたが、今年度、管理者兼務生活相談員に変更し、人員削減を行なった。また、機能訓練指導員に関しては、理学療法士から看護師に変更することで、残業削減を図るため、雇用契約終了とした。

>退職者

生活相談員：1名、機能訓練指導員：1名、常勤介護員：6名

>入職者

常勤介護員：5名、非常勤介護員：4名

介護職員の内、国家資格取得を目指した3名が、無事に全員資格の取得ができました

11 資金計画

介護報酬増加のため、退居者が出てから入居までの空床期間の短期化を図り、平成28年度の入居率95%から平成29年度入居率98%と改善した。一方、入居者の重度化が進むなどした結果、入院による空床が目立ち、思ったほど介護報酬は伸ばせなかった。また業務の効率化が思うように進まなかった結果、残業代など人件費が増え、最終決算は約2200万円の赤字となった。来年度においては、入院期間をできるだけ短期化にできるよう施設サイドから積極的に退院に向けたサポートを行い、現場の受け入れ態勢の構築を進めます。また、業務の標準化・効率化を図り、人件費(残業代等)の削減にも取り組みます。更に、多職種連携と協同化を図り、職員全員が介護現場として取り組めるように進めます。

第 3 年 度 事 業 報 告 書

- 1 所在地 大阪府高槻市東上牧二丁目 37 番 8 号
- 2 利用定員 18 名
- 3 職員定数 12 名
- 4 事業開始年月日 平成 29 年 4 月 1 日
- 5 事業の概要

入居されているご利用者様が自分らしく生きられるよう尊厳を守り、一人ひとりのニーズに合わせた暮らしを支え、出来ることを職員と一緒に暮らしの中で見つけていく自立支援に注力した認知症対応型共同生活介護（グループホーム）であるよう取り組みました。

6 利用者支援

(1) 生活指導

ご利用者様の共同生活の場として、自分でできることは出来る限り自分でしていただけるよう取り組みました。また、生活にメリハリを持てるよう、日中に散歩やレクリエーション等活動的に過ごし、夜間にしっかり安眠していただける支援しました。特に、寄り添う介護を心がけ、レクリエーションへの参加、外出の機会を持てるようにしました。

(2) 食事

ご利用者様に楽しんでお食事をしていただけるよう、食事レクの機会を増やしました。食べたい物を聞き、それを一緒に作る時間はご利用者様にとってかけがえのない時間となり、とても喜んでいただくことが出来ました。また、食事形態や特別食が必要な方、水分摂取の少ないご利用者様等への対応は、日々工夫を行い、ご家族様にも協力していただくなどして解決しました。食事時間も、一人ひとりの体調や状況に合わせた対応をしました。

(3) 環境の整備

ご利用者様が安全かつ快適に過ごせる環境を整えました。それぞれの居室には、家族に協力していただき、馴染みのある物を置いていただくなど一人ひとりのご自宅の空間を作っていただきました。共同フロアは、季節感のある飾り付けやご利用者と共に作った作品やレク・外出時の写真を飾るなど楽しい空間作りを心がけました。

7 健康管理

バイタルチェック、毎月の体重管理など必要に応じた健康管理を行いました。特に、異常とみられる場合には、医師・看護師と連携を図り、適切な対応を行ないました。また、認知症の進行に伴う不安症状や混乱、せん妄への対応では、専門医と連携しながら職員が適切な関わりを持つことで、安心して暮らしていただけるよう支援しました。

8 防災計画

法に則り、甲種防火管理者を設置し、高槻中消防署の指導の下、防火計画・避難計画等を策定し、定期的な訓練、平成29年7月7日、平成30年2月24日に実施しました。

9 日課

個々の生活習慣に沿って日々を過ごしていただきました。レクリエーション・趣味やコミュニケーションの時間を職員と共有し、外出できる時には散歩も含めて出来るだけ外出するよう支援しました。

10 職員

各ユニット：介護職員7名で運営をしました。

退職者：4名

入職者：6名

11 資金計画

今年度も満床維持を意識し、入居率99%と安定した運営が行えました。また、空床時の早期対応に加え、経費削減に努めました。

結果、経営増減差額735万円の黒字となりました。

第 3 年 度 事 業 報 告 書

1 所在地 大阪府高槻市東上牧二丁目 3 7 番 8 号

2 利用定員 1 2 名

3 職員定数 7 名

4 事業開始年月日 平成 2 9 年 4 月 1 日

5 事業の概要

手厚い職員体制の良さを生かし、きめ細やかなサービスを提供し、専門性の高い認知症対応型通所介護を目指しました。

少人数制の良さを生かし我が家のような安心感を感じられるよう特色である音楽療法に力を注ぎ穏やかな空間を作り出しました。

6 利用者支援

(1) 生活指導

ご利用者様がその人らしく過ごせるよう、なるべくそれまでの生活歴を尊重しつつもなるべく規則正しい生活が送れるように支援しました。利用者個々の病状や特性に応じて、一人一人にスポットをあて対応させていただきました。手芸や編み物そして昔懐かしい音楽を取り入れ心落ち着く居場所の提供に心がけています。ただ歌うのではなく、年 2 度発表会を開催し、やりがいもてるように日々の関わりを大切にしました。

(2) 食事

栄養士の管理の下、ご利用者の健康を維持、または改善が図れるようなバランスの良い食事を提供しました。その他食事レクも行き、普段食べる機会がない外部からの提供や自分達で調理する機会を増やし残存機能の維持にも意識して提供させて頂きました。時に自分達で育てたトマト・茄子・ピーマンなどを収穫して調理し、おいしく頂きました。

(3) 環境の整備

なるべく心地よい空間をと思い工夫しましたが、異食などがあるため、安全面を優先せざるを得なかった部分はありますが、くつろいでいただくために、観葉植物や花を置き、アロマや音楽などは積極的に取り入れました。

7 健康管理

来所されてからのバイタルチェック、毎月の体重管理、また必要に応じて、食事や水分の摂取量や排尿・排便も管理し、体調の異常等見逃さないように取り組みました。異常とみられる場合には、医師・看護師等と連携を図り、適切な対応を行ないました。

8 防災計画

法に則り、甲種防火管理者を設置し、高槻中消防署の指導の下、防災計画・避難計画等を策定しました。7月7日 2月24日消防訓練を行いました。

9 日課

お迎え、バイタルチェック、入浴、昼食、レクリエーション、おやつ、お送り等とお一人お一人の日課に沿った行動を取っていただきました。その上で、ご利用者のやりたい気持ちを尊重し、やる気をそがないよう日課に捉われすぎないようにも取り組みました。

10 職員

介護職員 6名（パート1名）と看護師 1名で運営しました。

退職者 介護職 2名

入職者 介護職 2名

介護職員の内 国家資格取得者 4名

認知症専門員 1名 取得を挑戦中 1名

11 資金計画

平成 28 年度が平均利用者数 6.3 人で赤字であったため、デイのサービスの質を向上させ、PR を強化した結果、平成 29 年度の平均利用者数は 8.8 人で約 300 万円の黒字となりました。引き続き、活気あるデイサービスづくりを目指します。

第 3 年 度 事 業 報 告 書

- 1 所在地 大阪府高槻市東上牧二丁目37番8号
- 2 利用定員 25名
- 3 職員定数 12名
- 4 事業開始年月日 平成29年4月1日
- 5 事業の概要

地域の中にあって、在宅での生活をあきらめたくない高齢者に対して、ケアプランはもとより、訪問介護、訪問看護、通所介護、短期入所を一元的管理の元でサービス提供できる看護小規模多機能型居宅介護の特色を生かし、高齢者がその人らしい生活が継続できるよう支援しました。特に、医療に強い側面を生かすため、医療機関との連携を密に図りました。

6 利用者支援

(1) 生活指導

ご利用者様がその人らしく過ごせるよう、それまでの生活歴を尊重しつつもなるべく規則正しい生活が送れるように支援しました。また、ご自宅で生活が続けられるように、デイを中心に訪問介護、訪問看護を組み合わせることで介護力の脆弱な家族構成の中でも当たり前のように生活が続けていただくことができました。特に安心してデイサービスに来ていただけるようデイサービスの送迎の前後に訪問介護サービスを提供して自宅での生活の不安の解消に努めました。

(2) 食事

栄養士の管理の元、ご利用者の健康が維持、または改善が図れるようなバランスの良い食事を提供しました。病状の悪化で日々変化する方には柔軟に迅速に対応し、ほんのわずかでも口から食べる事を大切にしました。

(3) 環境の整備

自然豊かな環境を生かして、季節の移ろいや時が巡る喜びをともに味わえる場を作ることができました。

7 健康管理

ご利用者の状況に合わせた健康管理を行ないました。適度に入所、通所等をご利用いただく中で、バイタルチェック、毎月の体重管理、また必要に応じて、食事や水分の摂取量や排尿・排便も管理し、体調の異常等見逃さないように取り組みました。特に、看護小多機をご利用になられるご利用者様は水分量の把握、嚥下状態への注意が特に必要でした。入院により状態が悪化し、自宅に戻る事に不安を感じる利用者様の気持ちに寄り添い、退院後そのままショートステイを一定期間まとめて利用していただくことで、自宅での生活の再開に向けて不安の解消を図る事に力を注ぎました。そのため、関係医療機関・医師・看護師等と連携を図り、医療的ケアの狭間を防ぐ対応を行ないました。

8 防災計画

法に則り、甲種防火管理者を設置し、高槻中消防署の指導の下、防災計画・避難計画等を策定し、7月7日、2月24日に消防訓練を行いました。

9 日課

各ご利用者様には、個別のケアプランに応じて、訪問介護、訪問看護、通所介護、短期入所と必要に応じたサービスをご利用いただきながら、なるべく規則正しい生活をしていただくように努めました。個別の事情に配慮して、家族の一員としての生活が成り立つよう、日々変化されるご利用者様の状況に応じて、その都度日課を見直し家族との相談の機会を設けて、その時々々の状況に応じたケアを行ないました。

10 職員

介護職員8名、看護職員3名で運営しました。介護職員の内、国家資格取得を目指した3名全員が、資格取得することができました。

11 資金計画

月々の利用者数は20名前後で推移し、月平均19名、最高で23名の利用で平均76%の稼働率でした。目的の定員25名には届きませんでした。今年度620万円ほどに収益が上がりましたが、累積赤字の解消と相殺し次年度に780万円ほどの赤字が繰り越されますが、次年度で解消できるよう努力いたします。